

ブルンジ月報（２０２０年１０月）

主な出来事

1. 内政・外政

- １日、マハマ難民キャンプからブルンジ難民５９５人が自主帰還
- ３日、ルワンダ国防軍がブルンジの武装民兵１９人を拿捕したことを公表
- ６日、ブルンジ情勢に関する国連人権委員会の任期延長
- ９日、元国会議員が政府転覆を狙ったとして逮捕・起訴
- １０日、コンゴのバニヤムレンゲ難民６４人がブルンジで逮捕
- １５日、バニヤムレンゲ難民３０人超がブルンジで逮捕
- ２０日、ルワンダ・ブルンジ外相会談
- ２０日、元大統領に対する終身刑宣告

1. 内政・外政

（１）マハマ難民キャンプからブルンジ難民５９５人が自主帰還（１日）（ＲＮＡ）

ブルンジ難民５９５人（マハマ難民キャンプの難民：４５２人、都市部の難民：１４３人）が自主帰還した。今年８月から組織的に自主帰還した難民は、今回を含め合計２，１４６人。帰還した難民は、ブルンジ北部のソンゴレ・トランジット・キャンプ（収容人数：５００人）に一時的に滞在した後、それぞれの出身コミュニティへ帰還する。

（２）ルワンダ国防軍がブルンジの武装民兵１９人を拿捕したことを公表（３日）（The New Times）

ルワンダ国防軍（ＲＤＦ）は、９月２９日にルワンダ国境を違法に越境しようとしたブルンジの武装民兵１９人を拿捕した旨公表した。ＲＤＦによれば、拿捕された民兵はレッド・タラバ（Red Taraba）武装集団のメンバーと自称しており、ニャルグル郡（ルワンダ南部）ルヘル地区の森林で捕らえられた。

（３）ブルンジ情勢に関する国連人権委員会の任期延長（６日）（ＩＷＡＣＵ）

国連人権委員会はブルンジ情勢に関する調査委員会の任期を一年延長することを決定した。この任期延長により、調査委員会は同国の経済状況を含めた調査を引き続き行うことが可能になる。国連人権委員会は、直近の選挙（本年５月）での出来事も含めたブルンジ国内でのあらゆる人権侵害及びこれら侵害に対して処罰がなされないことが常態化している点を強く非難し、ブルンジに対し、調査委員会による勧告を履行し、新政権発足以降に見られた前向きな変化を続けていくことを要請した。

（４）元国会議員が政府転覆を狙ったとして逮捕・起訴（８日）（ＢＢＣ）

元国会議員のバンシリヤニノ（Fabien BANCIRYANINO）氏が、今年６月に死亡

したンクルンジザ (Pierre Nkurunziza) 前大統領に対する反乱と中傷の罪で逮捕・起訴された。同氏は今年初め、ンクルンジザ大統領は大統領就任中の権利侵害と殺害の罪で起訴されるべきと国会で発言しており、5月の選挙では議席を失っていた。

(5) コンゴ人バニャムレンゲ難民64人がブルンジで逮捕(10日)(RNA)

コンゴ人バニャムレンゲ(注: ツチ系) 難民64人が、首都ギテガの複数の場所で逮捕された。内務・自治体開発・市民保護省の関係者によれば、逮捕されたのはルイジ州のブワギリザ難民キャンプで生活している難民で、虚偽の外出許可書を所有していた。難民は病気等の理由でキャンプ外に出ることは許可されるが、2週間を超えない範囲とされている。同関係者によれば、逮捕された難民はキャンプに戻され、ブワギリザ難民キャンプは虚偽の許可書発行について問われる。

(6) バニャムレンゲ難民30人超がブルンジで逮捕(15日)(RNA)

コンゴ(民)との国境に近いブジュンブラ県ティンブジ村ガトゥンバで、6家族30人以上のバニャムレンゲ難民が逮捕された。逮捕された難民は、「都市部の難民(urban refugees)」としてガトゥンバに少なくとも10年以上住んでいたという。

コンゴのンゼザ (Marie Tumba Nzeza) 外務大臣によるブルンジ訪問直後の今月7日以降、110人以上のコンゴ人バニャムレンゲ難民が、ブルンジ中央部のギテガ、北東部のムインガ及びンゴジの町で追放されている。同外務大臣はブルンジ訪問時、コンゴ(民)東部の武装集団に参加するためにブルンジを去るコンゴ人の若者を監視してほしい旨、ブルンジ当局に要請していた。

(7) ルワンダ・ブルンジ外相会談(20日)(IWACU)

ネンバ・ガセニ国境のルワンダ側にて、シンギロ・ブルンジ外務・開発協力大臣とビルタ・ルワンダ外務・国際協力大臣との会談が非公開で行われた。シンギロ大臣は、今回のルワンダ訪問は2015年依頼悪化した関係を正常化するというブルンジの意志を示すために実現した旨述べた。両国外務大臣間の会談を次回ブルンジ側にて実施することで合意したが、具体的な日程については明らかにされていない。

(8) 元大統領に対する終身刑宣告(20日)(RNA)

最高裁判所はブヨヤ (Pierre BUYOYA) 元大統領(任期: 1987-93、96-2003年)と18人の被告人に対し、1993年10月に当時のンダダイエ (Melchior NDADAYE) 大統領を暗殺した罪で終身刑を言い渡した。被告人にはカデゲ (Alphonse Marie KADEGE) 元副大統領(任期: 2003-2004年)も含まれる。暗殺されたンダダイエ氏は、ブルンジ初の民主的な大統領選で選ばれた初のフツ族大統領だったが、同氏の暗殺が引き金となり、少数

派ツチ族が大勢を占める軍とツツ族の武装集団との間で30万人が死亡する紛争が引き起こされた。ブヨヤ氏は現在、AUのマリ及びサヘル地域上級代表を務めており、ブルンジ不在中に終身刑が宣告された。

(了)